

2014年3月22日

関係各位

北マリアナ日本人会
会長 松永 鉄也

サイパン日本人補習校
運営委員長 北川 順一
校長 長田 育夫

サイパン日本人補習校・北マリアナ日本人会運営の現状と今後について

拝啓

平素より日本人補習校（以下「補習校」）ならびに北マリアナ日本人会（以下「日本人会」）の運営に際しては、関係される各位の多大なるご協力を賜り厚く御礼申し上げます。本年度も残すところあとわずかとなり、新年度もまもなくのスタートします。補習校においては通学される生徒の皆さんや生徒さんを直接サポートされる保護者の皆様、日本人会においては会員の皆様にとって、今後ともよりよい教育ならびに会員サービスの向上に努めて参ります。またこの場を借りまして、ボランティアでご尽力いただいている日本人会理事、補習校運営委員、講師の皆様に御礼申し上げます。

さて本日は、表題のとおり補習校・日本人会の運営状況を中心に、日ごろよりサポートをいただいている関係各位に両者運営の現状について共有させていただきます。次年度以降、日本人コミュニティにとって重要な両組織を皆様方と一緒にますますよいものにしていきたいと考えております。

なお、補習校 保護者の皆様においては先月のアンケートで、すでに状況の一部についてはご存知のこととは存じますが上述の補習校移転案についても検討すべきオプションの1つに上げさせていただきました。移転案についてはその後の最終検証の結果、今回は見送らせていただき現状の校舎を引き続き継続使用することといたしましたことをご報告申し上げますとともに、経緯等をご説明申し上げる次第です。

今後とも皆様方のさまざまな角度からのご協力をお願い申し上げます。

敬具

記

- 1) 日本人会ならびに補習校の財務状況の現状-----P2
- 2) 日本人会・補習校運営の健全化に向けての検証-----P2
- 3) 補習校移転（案）についての検証経緯・結果について（ご報告）--P3-P4

1) 日本人会ならびに補習校の財務状況の現状

詳しい数値については本年度決算報告にてお知らせできるかと存じますが、概要を申しあげます。両者とも単年度赤字が定着化し、繰越金（運営資金）が減少の一途をたどっています。現在の状況が継続しますと、試算・想定方法にもよりますが、今後数年程度で債務超過となる見込みです。補習校経費のうち多くを占める校舎賃料は国庫（日本国政府）と日本人会でほぼ折半して支出しており、補習校と日本人会の財務は実質連結しているといえます。

日本人会理事会では2013年度（今年度）にはいり早々の2013年6月から、上述の近い将来の債務超過を避けるため、将来へ向け「会員サービスの維持・向上」は引き続き前提としつつも、大切な子女のための教育機関である補習校の安定的な運営を見据えた対応策の本格的検討に入りました。

2) 日本人会・補習校運営の健全化に向けての検証

2012年度（前年度）においては、日本人会・補習校両者の合算収支が単年度\$8,000を上回る赤字であったこと、本年度以降においてもその傾向は継続されるとの見込みから、日本人会・補習校ともに2013年度は収支改善を一段と意識した運営を行いました。

<収入面での試み（一部抜粋）>

- * 会員数の増加に結び付けるべく各種会員向け行事の充実化、
- * 文化催事活動においてのご協力の呼びかけ（チャリティゴルフ、秋祭りなど）
- * 各種記念グッズの自主制作・販売（例：日本人会特製Tシャツ） など

現状の財務改善に大きく寄与するまでにはいたりませんでした。関係各位のご協力により、次年度以降への足がかりとなる一定の成果を残せました。

<費用削減面での取り組み（一部抜粋）>

- * 理事会・運営委員会等でのイベントごと、ケースごとの収支の逐一の確認、予算と見込みがかけ離れた場合の対策・検証による細かな経費の圧縮の試み。
- * 固定費として多額な補習校校舎賃料の、移転も視野に入れた支出削減の検証。

これらは、本年度については大きな効果を生むまでにはいたりませんでした。次年度以降の検証や方向性への大きな足がかりとなりました。

3) 補習校移転(案)についての検証経緯・結果について(ご報告)

以下のように経緯・概要をご報告します。

2013年

6月 日本人会・補習校収支状況の再検証の結果、収支構造改革も含めた改善は将来への安定運営においてはもはや先送りに出来ない状況であることを日本人会理事会にて共有。(質の低下を伴わない範囲での個別、行事別収支を一段踏み込んで管理することを開始)

9月-11月

9月以降の日本人理事会で、費用予算の大きな比率を占めている補習校関連支出、中でも校舎賃料の負担をなんらかの形で軽減する方向での検証の必要性が議題に上がる。11月理事会では、「生徒、父兄、講師を初めとした校舎使用者に対し、将来にわたる安定運営の確保を最優先にトータルとしてよい方向なるようにさまざまな角度からの検証を開始する」と決議。収入増、経費減の両面から検証に入る。(収入増には授業料等負担の増、経費減については校舎移転も含めた)

12-2月

現行校舎賃料に対する据え置きをお願い、他の校舎候補となる物件への問合せなどを並行して行い、最終段階では新聞広告も利用し、検討候補の範囲の最大化に努めたが、「経費は大きく下がるがロケーション、その他に難がある」「次<5年後>の更新時以降の運営状況・条件に一定以上の確証が得られない」など全てにわたり一長一短の結果。(移転候補先としてあたった数は10箇所強に及び、実在の公立・私立の土曜日午前みの時間借りの検討やPSS<パブリックスクールシステム>などとの折衝も行った。)結果的に直前となってしまったが、保護者の方々にお願いしたアンケートのご回答も加味した結果、今回については「トータルとして現状の条件の中での最善の方法」として、「移転費用」「移転候補先の将来の再契約(5年後)の際の廉価を維持した契約可否の不確実性の度合い」などを考慮し、現行校舎の継続利用(2014年4月からの5年間再契約)を決定した。

以上が校舎移転検証についての経緯概略です。

なお、本来であれば校舎移転を含めた検証については1年から2年かけて行う予定でありました。現行校舎の再契約時(5年契約)には途中解約条項を盛りこむよう交渉を続けていましたが、途中解約不可(5年契約のみ)という結果が出たのが2014年1月でした。その時点からの約2ヶ月半での移転検証となってしまいましたため、保護者の皆様を含めた関係各位への丁寧なご説明や経過報告が不足してしまいましたことは事実であり、お詫び申し上げます次第です。

今後の方向性について

現行補習校校舎を継続使用しつつ、1F 倉庫部分を返却し、荷物等は2F スペースから捻出することにより、若干コストは削減されることとなります。ただし、財源不足傾向は根本的には変わりません。引き続き時間をかけて細かく収入・費用を精査して参ります。校舎賃料を初めとした大きな費用面での検証は、中期的な継続課題として、2017年度（3年後）から、そのときの状況を踏まえて再開する予定です。

具体的には、契約更新の2年前から、将来を見据えじっくりとあらゆる可能性・選択肢について検証・比較・折衝し、同時に保護者の方はもちろん関係される方々から、「状況説明会」、「臨時総会」などを通じて幅広い意見をお伺いしながら進めていくこととなります。

繰り返しになりますが、大切な教育機関としての機能を維持・継続・発展させるためには現状において財源が不足し、枯渇しつつあることは明らかなです。今回は抜本的な費用構造の改革には至らなかったため、経費のさらなる効果的利用による「費用削減」、授業料値上げも含めた「収入増」（＝収入増の方法は必然的に「生徒数の増」、「授業料の改定」、「寄附等のご厚意の増」「補習校・日本人会の行事活動を通じての収入増のスキーム作りと確立」いずれかになるかと思います）の両方は引き続きの必須条件となります。ご負担増をお願いする時期を少しでも先に延ばし、または、その金額を可能な限り少なく抑えていくため、またより理想的な補習校・日本人会にしていくため、皆様方のご意見、ご提案を大小問わずお待ちしております。

以上 ご報告とさせていただきます。